

# 経営学部

## 令和7年度 社会人入学試験

### 1. 実施状況

#### (1) 志願者数、合格者数等

学科	志願者数	受験者数	合格者数
経営	1	1	1
合計	1	1	1

#### (2) 本入学試験の目的

本学では、多様な入学試験制度を導入し、受験生に対して幅広く受験の機会を提供しています。そのうちの「社会人入学試験」は、入学時点で満22歳以上であり、大学入学資格を有する者のうち、正規または非正規（アルバイトを除く）の職員として勤務している者、あるいは社会経験を有する者を対象とし、特別な選抜方法により実施する入学試験です。社会経験を有する多様な学生を受け入れることで、本学部の一層の活性化を図ることを目的としています。

### 2. 試験内容・出題の意図

#### (1) 書類審査

最終出身学校の卒業証明書または在籍証明書、成績証明書で出願資格を充足するかを確認したうえで、志望理由書により、本学部への入学意欲や将来のキャリアの見通しや目標について、しっかり自分の意見が述べられているかを確認しました。

#### (2) 小論文

「訪日客値上げ論、浮上 姫路城4倍案『市民負担増は困難』」（2024年6月23日 朝日新聞・朝刊）から、「オーバーツーリズム」について、何が問題なのかを示すとともに、その対応策について具体的な事例をあげて記述するよう求めました。新聞記事を読んだ後、受験生自身が具体的な事例を示しながら、「オーバーツーリズム」に対する自身の意見・主張とその理由を論理的、客観的に伝えることを求めました。

#### (3) 口頭試問

小論文に加えて、約10分間の口頭試問を行いました。口頭試問では、2名の面接担当教員が1名の受験生に対して、事前に提出された志望理由書などにより、本学部への入学意欲やアドミッション・ポリシーに叶う者かどうかを確認しています。

### 3. 評価のポイント

#### (1) 小論文

まず、新聞記事の内容を正確に理解できていること、設問の求める条件をきちんと理解して、「オーバーツーリズム」の何が問題なのか、どのような対応策があるかについて、具体的な事例を示しな

がら、指定された文字数で簡潔に表現できているかが評価のポイントでした。さらに、自身の意見・主張とその理由を論理的、客観的に伝えることができているかどうかを確認しました。

## (2) 口頭試問

口頭試問での評価の主なポイントは以下のとおりでした。

- ・自分の言葉でしっかり説明できているかどうか。
- ・なぜ本学部を目指そうとしたのか、それが自身の学習とどのように関連するのかどうか。
- ・入学後、何をどのように学びたいのか、学業の目標を示すことができているかどうか。
- ・自身のキャリアプランを明確に持っているかどうか。
- ・自身の強みをしっかりアピールできるかどうか。

## 4. 解答状況

### (1) 小論文

「オーバーツーリズム」について正しく理解し、具体的な事例を示しながら、字数不足、字数オーバーなく、簡潔に解答しておられました。自身の意見・主張とその理由を論理的、客観的に伝えておられました。

なお、この小論文では、何が言いたいかわからない文章、自分の意見なののはっきりしない文章、論理的に書けていない文章は、大幅な減点となります。字数不足、字数オーバー、判読できない文字、誤字・脱字も減点の対象です。

## 5. 次年度の受験生へのアドバイス

令和8年度入試から「社会人入学試験」は、総合型選抜に統合することになっています。目的や出願条件等に大きな変更はありません。

小論文については、専門知識を問うような出題は見込んでいませんが、文章を読んで、自分なりに要約する力、そしてそれを踏まえて、自分の意見をしっかりとアウトプットできる力を養っていただきたいと考えています。この力は、入学後も必ず必要になるものですので、トレーニングを積んでいただくことを期待します。

口頭試問については、これまでの経験を踏まえ、なぜ近畿大学で経営学部なのか、将来の目標のためにどう進んでいきたいのか、これらを自分の中で組み立てて、そこから派生するであろう質問を想像しながら準備していただくことが良いだろうと思います